

國學院大學文学部

中国文学科ガイドブック

— 中国の文学と文化を探究する —

華貴本草

— 中国の文学と文化を探求する —



中国古典の学修と 現代中国語の習得を学びの根幹に

中国文学科代表 浅野 春二

中国文学科では、中国文学を中心にその関連分野を幅広く学べるようにカリキュラムを編成しています。それは元来人文学が細分化を嫌うものであるからです。人間の営みは、文学も思想も宗教も一体のものです。個別に切り離して考えていくことはできません。

しかし、ただ幅広く学べばよいかというと、そうではありません。幅広く学ぶ中で重要なのは、根本に立ち返ることです。ただ広い知識を身につけるだけではなく、学ぶ中で自身の足元を見つめ、自己を確立していかなければなりません。揺らぐことのない根底を確立すること。それが学問において何よりも大切なことです。本学創立の「告諭」に「本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ」とあるとおりです。

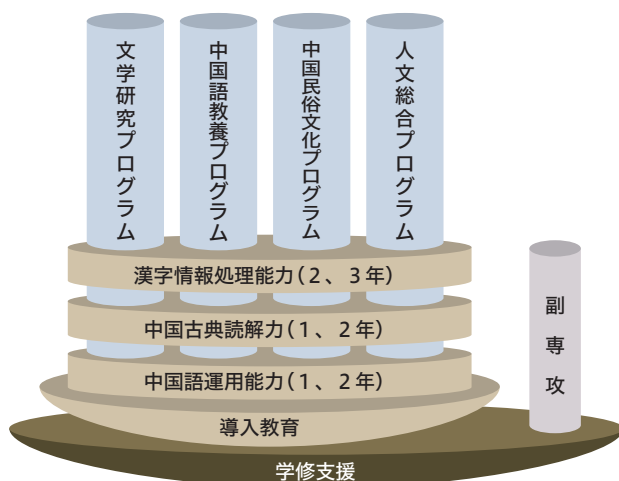
社会の一員として社会を支え、社会の中で生き抜くために、主体的な自己を確立する。それが大学4年間になすべきことだと思います。

そうした考えの上に立って、中国文学科では、普遍的な価値を持つ「古典」の学修を1つの大きな柱にしています。「古典」を学ぶことによって、移ろいゆく現代のさまざまな問題にも、主体的に取り組んでいけると考えます。また、留学を積極的に推奨しています。中国語の運用能力を高めるだけではなく、実際に現地で得られる経験がとても大切だと思うからです。

ぜひ中国文学科で、広く深く中国文学を学んでほしいと思います。

創立以来 百三十年の伝統

中国文学科・カリキュラム概念図



國學院における中国文学の歩み

<第1期>1882～1947 建学から旧制大学へ

1882：明治15年 皇典講究所設立。
1890：明治23年「國學院」開校。
1920：大正9年 大学昇格。
1930：昭和5年「漢文學會」発足。以降、戦前戦後の混乱期を克服して活発な学術活動を展開。この間一貫して、古典としての「國漢」は重視され、また国史・国文に対する史伝・漢文は、本学の基幹としての役割を担った。

<第2期>1948～1995 戦後の混乱復興から学の充実へ

1948：昭和23年 新制学部に移行。
1951：昭和26年 大学院文学研究科設置。
1980：昭和55年『漢文學會々報』創立50周年記念号発行。
1982：昭和57年 大学創立100周年を迎える。
1992：平成4年「漢文學會」を「中國學會」に改称。この間、文学部文学科に「中国文学専攻」→「漢文学専攻」→「中国文学専攻」が展開し、数度のカリキュラムの改訂を経て、学科課程の拡大・深化を図る。

<第3期>1996～ 中国文学科開設から更なる発展へ

1996：平成8年 文学科を発展的に解消し、日本文学科・中国文学科・外国語文化学科設立。
2000：平成12年 中国文学科第1期生卒業。
2006：平成18年 学科内にプログラム選択制・セメスター留学制発足。翌年、南開大学に留学生派遣。

中国文学科の学びと特色

Q&A

Q どんな授業がありますか？

[→詳しくはP6～7へ]

A 中国文学科には、70以上の授業科目があります。学科の学びの基幹の科目群(学科基幹科目)は、**中国古典の理解・中国語運用能力の向上・漢字情報処理技術の習得**を柱として構成されています。論語・詩経・楚辞・文選・唐宋詩文を学ぶ科目、現代中国語を初歩から学ぶ科目、PCを用いて中国学関連の文献調査法やデータベースの活用法を身につける科目があります。また、漢文を初歩から学び直す科目も設けられています。さらに、中学・高校国語科教員志望者を主な対象として、古典研究の専門性を活かした教育のできる教員の養成を目的として「**古典教育研究**」も設けられています。

本学科の学びの特色は、中国学に関することがらで興味を持ち、関心が高まった問題について、各人が関連する科目を選択・履修して**自分独自の学びを組み立てていく点(プログラム選択制)**にあります。中国文学科には、中国近現代小説についてはもとより、翻訳や通訳の技法やビジネスに役立つ現代中国語を学ぶ科目、中国の歴史や思想、文字学、さらに絵画や芸能について学ぶ科目、中国の儀礼や食文化・民俗文化などを学ぶ科目などが開講されており、人や社会、また、その上に花開く文化について、多角的、総合的に学ぶことができます。

Q 大学での授業をどう取りますか？

[→詳しくはP6～7へ]

A 中国文学科の授業は半期開講の科目です(関連科目は除く)。それぞれ科目ごとに履修単位は異なり、1～6単位です。中国文学科のカリキュラムは「**専門教育科目**」と「**共通教育科目**」に分かれています。卒業のためには124単位以上が必要です。履修方法には2通りあります。中国学を深く学びたい人は「専門教育科目」を88単位以上、「共通教育科目」を36単位以上取ることができます。幅広く学びたい人は、「専門教育科目」を64単位以上、「共通教育科目」を36単位以上、さらに「全学オープン科目(共通教育科目+他学部他学科専門科目)」を取ることもできます。**自分の興味と目的に合わせて、授業の取り方を決められます。**

●中国学を深く学びたい

卒業に必要な単位：124単位以上

専門教育科目
88単位以上

共通教育科目
36単位以上

●中国学を幅広く学びたい

卒業に必要な単位：124単位以上

専門教育科目
64単位以上

共通教育科目
36単位以上

全学オープン科目
24単位以上

(共通教育科目+他学部・他学科専門科目)



Q 4年間、どんなことを学びますか？

[→詳しくはP6～7へ]

A 中国文学科では、「中国語運用能力」「古典読解能力」「漢字情報処理能力」の養成を土台にカリキュラムが構成されています。1年から4年まで、これらをもとにしたカリキュラムで段階的に学び、専門性を身につけます。中国文学科の「専門教育科目」は、「学科基幹科目」「プログラム専修科目」「関連科目」に大別されています。

1年次	現代中国語と古典読法の授業が中心。他に「中国学入門」「中国文学概説」などで中国文学の基礎と学問への姿勢を学びます。漢文を初歩から学び直す科目もあります。
2年次	選択したプログラムの「基礎科目」から授業を履修していきます。他に「中国文学通史」「論語演習」「詩経演習」などの専門科目を履修し、中国文学への理解を深めていきます。
3年次	選択必修科目「中国原典研究・演習」から選択履修し、個別の文学研究方法を学んでいきます。他に「プログラム応用科目」から選択履修していき、幅広い知識を吸収していきます。卒業論文のテーマを決めるための「卒業論文Ⅰ」もあります。
4年次	3年次から引き続き「卒業論文Ⅱ」を履修し、中国文学科での学修の集大成となる卒業論文の完成を目指します。

Q 4つのプログラムとコースの違いって何ですか？

[→詳しくはP6～7へ]

A プログラムは、各プログラムの科目群の中から履修します。プログラムは、「文学研究プログラム」「中国語教養プログラム」「民俗文化プログラム」「人文総合プログラム」の4つです。1年次後期に1つを選択し、そのプログラムの科目を履修していきます。各プログラムで、取得単位がそれぞれ違います。コースと違い、3年後期までいつでもプログラム変更が可能です(申し出が必要)。

Q 留学制度はどんなものがありますか？

[→詳しくはP8～9へ]

A 國學院大學では3つの留学制度を実施しています(中国語圏)。第1は、春休み・夏休みに行われる1か月の短期留学、第2は、2年次後期に行われるセメスター留学(復旦大学は約4ヶ月、国立台湾師範大学は約6ヶ月)、第3は、半年もしくは1年の協定留学です。留学先は台北・台南・上海・天津にある5大学です。

Q どんな資格が取れますか？

[→詳しくはP10へ]

A 中国文学科の学生は、国語(中学校一種・高等学校一種)の「基礎免許」が取得可能です。「副免許」として、英語・社会・保健体育(以上、中学校)、英語・書道・地理歴史・公民・保健体育(以上、高等学校)が取得可能です。他に、学芸員・図書館司書・学校図書館司書教諭・神職の資格が取得できます。

Q どんなところに就職していますか？

[→詳しくはP11へ]

A 様々な職種の一般企業に就職しています。中国語学習・中国留学の経験を生かして就職をする卒業生が近年増えています。中国文学科では就職フォーラムを開催し、内定生による中国文学科生に特化した就職活動に関する情報を提供しています。また、古典読解能力を活かした国語教員になる卒業生も増えています。さらに、大学院に進学して専門性を深めていく卒業生もいます。



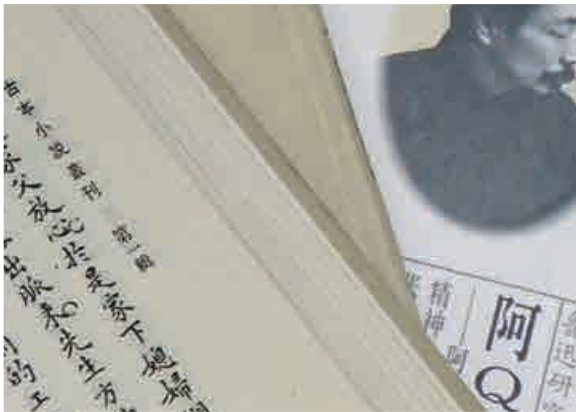
中国を深く研究し、知性と感性を磨く

4つのプログラム選択

文学研究プログラム

文学の深い探究

2年次に履修する「中国文学基礎Ⅰ～Ⅲ」は、古典文学、現代文学と多彩な内容です。3年次に履修する「中国文学特殊講義A・B」（選択者は必修）、内容は中国小説史と近現代文学です。「中国学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」は日中比較文学など、文学研究をさらに深めて、教職や大学院進学目標にも対応できます。



中国語教養プログラム

中国語を存分に

1年次後期に「現代中国概説」を履修し、現代中国の歴史を学びます。2年次以降は後期のセメスター留学準備のための「中国語教養基礎Ⅰ」、留学後の能力維持のための「中国語教養特殊講義A・B」（選択者は必修）、「中国学特殊講義Ⅷ・Ⅸ」など現代中国語を学習するための授業内容が充実しています。



授業紹介 ※一例です

中国学入門

中国文学への入り口として、中国における「学問」を学びます。幅広い知識を吸収し、視野を広げることを目指します。漢籍にも実際に触れ、漢字によって成り立つ中国学の世界を体験していきます。1年次後期で決定する4つのプログラムへの導入部にもなります。

中国古典読法基礎 中国古典読法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

中国古典の読解力を養成します。漢文基本構造・句法や古語文法、解釈法などを学びます。この授業で読解力を身につけ、漢文が強くなった国語の教員になった学生もいます。

唐宋詩文演習

日本でも有名な李白・杜甫などの唐代の詩人や宋代の詩人の詩歌作品を学んでいきます。唐代・宋代の詩歌作品は近体詩と呼ばれ、中国文学の精華です。有名な作品を精選し、読解・鑑賞する方法を学んでいきます。

中国語基礎演習

中国語運用能力の養成のための基礎となる授業です。週2回、半期で中国語の発音、基本的文法を学びます。また暗唱の時間を設け、よく使うフレーズを覚えながら、同時に発音練習に役立ちます。その際、担当教員が1人1人の発音を丁寧に直していきます。

漢字情報処理Ⅰ・Ⅱ

パソコンを用いた電子情報編集の基礎を学び、中国語文字入力・縦書き文書作成方法、レポート作成を学びます。さらに、中国文学関連(日本語・中国語)の検索方法など、漢字文化圏について学ぶ際に有用なコンピュータ技術を身につけます。

卒業論文Ⅰ・Ⅱ

4年間の学修の集大成である「卒業論文」を作成するための授業です。中国文学科では卒業論文は選択制となっています。3年生前期に「卒業論文Ⅰ」を履修し、テーマを決めます。3年生後期で「卒業論文Ⅱ」を履修し、1年半をかけて卒業論文の準備・執筆を行います。

中国民俗文化プログラム

中国の人と生活を知る

1年次後期に「中国民俗文化概説」を履修し、2年次からは「中国民俗文化基礎Ⅰ～Ⅲ」、3年生からは「中国民俗文化特殊講義A・B」、「中国学特殊講義」群から履修し、中国の民間に伝わる文化を深く掘り下げ、東アジア世界に広がる基層文化の理解を目指します。



人文総合プログラム

幅広い中国理解

1年次後期に「中国文学概説」を履修し、2年次からは「人文総合基礎Ⅰ～Ⅲ」、3年生からは「人文総合特殊講義A・B」、「中国学特殊講義」群から履修します。思想、歴史、芸術、生活文化など中国に関する学問を幅広く学びます。



卒業論文発表会

中国文学科指導教員から選ばれた4年生が学修の集大成である卒業論文の成果を発表します。また、最も優秀な卒業論文には審査の上、國學院大學中國學會奨励賞(賞状および副賞)が授与されます。

【卒業論文題目例(令和2年度)】

- 司馬遷の『史記』で描かれる制作動機についての考察
～列伝における「怨恨」を中心に～
- 二十卷本『搜神記』における水と女
- 杜甫と秋雨―天宝期から上元期の作品を中心として―
- 蘇詩詠物の特質―「竹」「梅」を端緒として―
- 『論語集注』における「命」について
- 莫言の描く「怒り」について ～『天堂狂想歌』を中心に～
- 人格養成におけることわざ



語学力をさらに伸ばす

3つの留学制度

1 短期留学

夏休み(台湾・台南市、南台科技大学)・春休み(上海市、復旦大学)の約1ヶ月間にわたる留学制度です。中国語を現地で磨く格好の機会です。

3 協定留学

セメスター留学等で実力をつけた学生には、更に協定留学で学ぶ機会があります。学内選考をへて大学派遣留学生として南開大学・復旦大学・南台科技大学・世新大学で、半年間または1年間学ぶことのできる留学制度です。学費は本学納入分のみで、留学期間中の協定校への学費は原則として免除されます。(中国語検定2級またはHSK5級合格が基本的に選考条件)

●復旦大学キャンパス



●国立台湾師範大学キャンパス



中国語の運用能力を高めるために、中国文学科では中国語圏への留学を推奨しています。

本学の留学には、＜短期留学＞・＜セメスター留学＞・＜協定留学＞などがありますので、各自の学修の目標、卒業後の進路などをよく考えて積極的に参加してください。

2 セメスター留学

セメスター留学は、1学期間、中国語圏の大学で学ぶ留学制度です。

協定校へ留学(上海・復旦大学か台北・国立台湾師範大学から1校選ぶ)して、週5日(1コマ45～50分を1日3～4コマ)の中国語や中国文化の授業を受け、國學院大學の単位として認定されます。

中国語教養プログラム選択者は必修ですが、他のプログラムからでも参加可能です。本学科のカリキュラムでは、2年次に位置づけています。

中国文学科・ 中国語学修のモデル

●は本学科専門科目、■は教養総合科目

1年
前期

●中国語基礎演習
(週2回開講)

■中国語 I

短期留学

(夏休み・春休み)



約1ヶ月間

1年
後期

●中国語演習 I

■中国語 II

✈️ 例えば、こんな留学の組み合わせも！



Aさん

短期留学 → セメスター留学

1年次の夏休みに短期留学に参加しました。1ヶ月間で、中国語会話や周囲の環境に慣れ、中国人の友達もできました。2年次後期にセメスター留学に参加した時、短期留学での経験が非常に役立ちました。到着直後から積極的に動き、様々な人々と交流をして、中国語能力がとても向上しました。2回の留学経験を上手くつなげ、大いに役立てたと思います！



Bさん

セメスター留学 → 協定留学(半年)

2年次後期に参加したセメスター留学では、残念ながらあまり積極的に動けませんでした。中国語能力も私にとってはあまり伸びなかったと心残りでした。そのため、協定留学で交換留学生としてもう一度南開大学に留学し、中国語会話能力をもっと伸ばしたいと思いました。3年次後期からの半年間の協定留学では、中国人や外国人の友人ができ、中国語会話能力もどんどん向上しました。生活面では自分で何でしなければならなかったもので、人間的にも成長したと思います。合計1年間の留学でしたが、身につけた中国語能力は就職活動にも役立っています！



Cくん

短期留学 → セメスター留学 → 協定留学(1年)

1年次春休みに復旦大学での短期留学に参加しました。この時は、中国語が全然話せず、中国語能力もあまり伸びませんでした。中国語をもっと勉強したいと意欲がわきました。2年次後期のセメスター留学では、中国語を一生懸命学びました。中国語の授業はレベルが高く、最初はついていくのに必死でした。しかし、そのうち慣れて中国語能力、特にヒアリング能力が向上しました。中国語の響きにすっかり魅了され、もっともっと学びたいと思い、協定留学生として再び留学しました。1年間の留学期間では、様々な場所に出かけ、中国語をツールとして国際交流ができました。合計1年5ヶ月の留学でしたが、國學院大學は単位認定制度が充実しており、4年間で卒業できます。是非活用してください！

南開大学(天津市)

1919年に創立された中国における重点総合大学の1つです。故・周恩来首相の母校としても有名です。キャンパスは天津市南開区に位置し、近くに水上公園や動物園などがあり恵まれた環境にあり、北京へは新幹線で約30分というロケーションですので、北京市街も行動範囲になります。

復旦大学(上海市)

1905年創立の総合大学で、中国では北京大学と双璧をなす名門大学です。科学技術・経済・管理・生命科学など各種の研究機関や研究所があり、広大な校地には緑も多く環境は良好です。

南台科技大学(台南市)

1969年に創立された台湾の総合大学で、在来線「台南」駅から約4kmの、台南市の北東部に位置します。都市部の利便性と農村ののどかな雰囲気が融合した環境の中にあります。

国立台湾師範大学(台北市)

台湾、台北市の中心部に位置する国立台湾師範大学は、日本統治下の1922年に設立された台湾総督府台北高等学校が基となる名門大学で、台北地下鉄(MRT)「古亭」駅から徒歩約8分、「東門」駅から徒歩約12分の場所にあります。

世新大学(台北市)

台北市に位置する、1956年創立の総合大学。世界新聞職業学校を前身とし、台湾ではジャーナリズムの分野における研究で有名で、マスコミ、映画業界等で活躍する卒業生を多く輩出しています。

セメスター留学

2年
前期

- 中国語演習Ⅱ
- 中国語Ⅲ

2年
後期



4～6ヶ月間

- 中国語教養基礎Ⅰ
- 中国語教養特殊講義 A・B
- 中国学特殊講義 XVIII・XIX

協定留学

※学内選考があります

3年
4年



半年または
1年間

卒業

中国文学科で取得できる 資格・免許

教職課程

中国文学科の学生は、卒業要件のほかに所定の科目履修や実習等を経て、**国語(中学校一種・高等学校一種)の「基礎免許」**が取得可能です。

また、この基礎免許を履修した上で所定の条件を満たすことにより、「副免許」や「※異なる学校種の副免許」を取得することも可能です。

●中国文学科の学生の取得可能な「副免許」

基礎免許教科	国語(中学・高校)	
副免許教科	中学	英語・社会・保健体育
	高校	英語・書道・地理歴史・公民・保健体育

資格課程

本学で取得可能な資格には以下のものがあります。

- 博物館学課程
- 図書館司書課程
- 学校図書館司書教諭課程
- 神職課程



教職課程や資格課程を履修する場合、2年次にセメスター留学に参加しても、4年間で卒業要件を満たして卒業時に課程を修了することが可能です。

※図書館司書課程については、選抜試験(例年11月頃実施)を行います。
(学校図書館司書教諭課程は面接選考)

※学校図書館司書教諭課程は、教職課程も併せて受講する必要があります。
※神職(正階)資格取得後、明階の授与を受けるには、卒業後実務試験が必要です。

※副免許教科は基礎免許教科を取得するための課程履修を条件として取得可能です。

教職を目指す、みなさんへ



卒業生 A さん

学部 → 教員

中国文学科で過ごした4年間で学んだことは、「妥協からは何も生まれない」ということです。

大学生時代、私はセメスター留学に参加しました。そして、帰国後、教員採用試験の勉強と卒業論文とに全力を尽くし、現在、夢であった高校の教壇に立っています。当時、「留学」「教職」「卒業論文」を全てこなすのは不可能だと言われたこともありましたが、実際やってみれば決して出来ない事ではありませんでした。留学は自分の価値観や世界観を広げるきっかけとなりました。また、1つのことを徹底的に追究して書き上げた卒業論文を提出したときの達成感は今でも忘れることができません。

これらの経験全てが、現在、生徒指導の基盤となっています。生徒は教師自らの経験に基づく言葉に興味を示します。教師は勉強を教えることはもちろん、どれだけ話の引き出しを持っているかも重要です。大学で「妥協」せずに努力し、様々な経験を積んで教員になったことを「自信」と「誇り」にして毎日生徒と接しています。

受験生の皆さん、受験という壁を「妥協」することなく乗り越えた先には一生の糧となるものが生まれているはずです。ぜひ中国文学科で頑張ってください。



卒業生 B さん

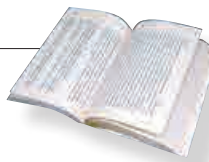
大学院修了 → 教員

学部時代は中国文学科の講義で学ぶだけでなく、研究会にも参加しました。志を同じくする友と切磋琢磨しながら、先生や先輩方の御指導を受け、読解力を身につけました。

さらに後輩の指導などの経験を通して、教えるためには膨大な準備が必要であると痛感しました。講義での勉学に真摯に取り組み、自ら選択し参加して友と取り組んだ研究会活動は、私の大学生活の中心でした。

大学院では漢文教育ができるという「強み」を持った国語教員を目指し、更に専門性を高めました。学部、大学院時代、先生方には学問知識だけでなく、文学を通して、或はその生き方を通して、物事の本質に迫るという態度を教えてくださいました。

中国文学科でしかできないことに真摯に向き合ったことが、現在、教員となった私の支えになっています。恩師の背中を追いながら、常に物事の本質に迫るということを、これから生徒たちに伝えていけたらと思います。



卒業後の進路(近3年)

就職

●製造	関東グリコ、北海道乳業、横浜ゴム、資生堂、住友化学、日本信号、三菱ふそうトラック・バス、東芝テック、ニチバン、太平洋セメント
●商社・小売	日本アクセス、マクニカ、国際紙パルプ商事、イオンリテール、三越伊勢丹
●建設	松井建設、東亜道路工業
●運輸・通信・旅行	ANAエアポートサービス、鈴与、JTB、エイチ・アイ・エス
●金融	みずほフィナンシャルグループ、東日本銀行、三菱UFJ銀行、武蔵野銀行、城北信用金庫、中央労働金庫、プルデンシャル生命保険
●サービス	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル、マイナビ、楽天
●マスコミ	産業経済新聞社、ビーエスフジ
●非営利・組合	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、独立行政法人国立病院機構、日本年金機構、公益社団法人日本歯科医師会、くまがや農業協同組合
●公務員	法務省矯正局、神奈川県庁、中野区役所、松戸市役所、十日町市役所
●教員	私立高等学校 横浜商科大学高等学校、八千代松陰学園 私立中学・高等学校 明德義塾中学校・高等学校、土浦日本大学中等教育学校 公立高等学校 東京都、神奈川県、埼玉県、茨城県 公立中学校 神奈川県
●進学	●本学大学院 ●国公立・私立大学大学院 ●海外大学

卒業生からの アドバイス

就職フォーラムは、中国文学科生に特化した内容です。毎年1回後期に行われます。私は3年生の時に参加しましたが、1、2年生も参加可能です。内定を受けた4年生の就職活動体験談で、一般企業、公務員、教職と多種多様です。特に教職は卒業生で高校教諭の方にアドバイスをいただきました。一般企業と教職で迷っている人にも有益です。また別の時期には、マスコミ関係者による就職フォーラムが開かれました。就職活動に関連する新聞記事の読み方、スクラップブックの作り方、狙い目の業種・職種など教えていただき本当に役立ちました。



就職フォーラム

卒業後、どのような職に就くのか。就職は在学中の大きな関心事の一つでしょう。本学科では、「中国文学科生対象就職フォーラム」を開き、実際の企業の方からアドバイスをいただいたり、内定が決まった4年生に、就職活動での心がけや体験談を話してもらったりしています。3年生を中心に参加者も多く、質疑応答も活発に行われて、情報交換やアドバイスが大いに参考になると好評です。



各教員紹介

あおき ようじ
青木 洋司 准教授 AOKI Youji

専門領域 中国哲学史

●主な業績

『宋代における『尚書』解釈の基礎的研究』

(単著 明徳出版社 2014, 12)

『論語—朱熹の本文訳と別解』

(共著 明徳出版社 2017, 11)

『和田静観寓『論語序説』小考』

(単著 『國學院中國學會報』第65輯 2019, 12)

『毛利貞齋『重改論語集註俚諺鈔』について—引用諸註を中心として—

(単著 『日本儒教学会報』第4号 2020, 1)

『漢百年『論語余師』再考—『論語集注』との関係を中心として—

(単著 『國學院中國學會報』第66輯 2020, 12)

いしもと みちあき
石本 道明 教授 ISHIMOTO Michiaki

専門領域 中国古典文学

●主な業績

『朱熹詩集伝全注釈』全9冊

(共著 明徳出版社 1996～1999)

『孔子全書』

(共著 全22巻、既刊『論語』10巻『史記』2巻、『孔子家語』1巻、明徳出版社 2000～以下続刊)

『論語—朱熹の本文訳と別解』

(共著 明徳出版社 2017, 11)

『嵇康「卜疑集」管窺』

(単著 『國學院中國學會報』第62輯 2016, 12)

『中村惕齋「論語示蒙句解」小考—学問は人格の陶冶のために—

(単著 『新しい漢字漢文教育』第69号 2019, 11)

さわざき ひさかず
澤崎 久和 教授 SAWAZAKI Hisakazu

専門領域 中国古典文学

●主な業績

『白居易詩研究』

(単著 研文出版 2013, 2)

『杜甫全詩訳注』全4冊

(共著 講談社 2016, 6～10)

『晁迥「法藏碎金錄」と白居易詩文初探』

(単著 『白居易研究年報』第15号 2015, 3)

『白居易「以詩爲佛事」と『維摩經』—宋代への継承を視野に入れて—

(単著 『白居易研究年報』第16号 2015, 12)

『唐代伝奇小説「裴航」と宋詞—楊沢民「倒犯(藍橋)」を中心に—

(単著 『新しい漢字漢文教育』第70号 2020, 6)

まきの のりこ
牧野 格子 准教授 MAKINO Noriko

専門領域 中国近現代文学

●主な業績

『ハーバード大学ホートン図書館所蔵 ポイントン文書ならびに謝冰心直筆の書簡について』

(単著 『國學院中國學會報』第64輯 2018, 12)

『An Introduction on "Leçons Progressives pour L'étude"』

(単著 『或問』33号 2018, 6)

『英訳本『春水』における翻訳手法と新解釈への可能性』

(単著 『春水』手稿と日中の文学交流—周作人、謝冰心、濱一衛— 2019, 3)

『謝冰心とエレン・ラモット「ベキン・ダスト」—異文化接触における不幸な邂逅—

(単著 『國學院雑誌』120-8 2019, 8)

1955年「旅欧日記」から見る謝冰心の社会的地位

(単著 『國學院中國學會報』第66輯 2020, 12)

あさの はるじ
浅野 春二 教授 ASANO Haruji

専門領域 道教儀礼

●主な業績

『道教の教団と儀礼』講座道教第二巻

(共著 雄山閣 2000)

『飛翔天界 道士の技法』シリーズ道教の世界

(単著 春秋社 2003)

『台湾における道教儀礼の研究』

(単著 笠間書院 2005)

『八門召魂壇において用いる蜀人について—南宋期道教の神虎召魂法から—

(単著 『國學院中國學會報』第62輯 2016, 12)

『台南道教の進歩について』

(単著 『儀礼文化学会紀要』6 2018, 3)

ご こうしゅん
呉 鴻春 准教授 WU Hongchun

専門領域 中国古典文学

●主な業績

『鐵研齋詩存』

(単著 齋藤拙堂 撰・輯校 汲古書院 2001, 10)

『音形方式漢字入力法』

(中国国家知識産権局 2003, 6 授權 単著 発明特許権)

『漁村文話』・『漁村文話続』

(海保元備著 単訳 『歴代文話』第十冊 復旦大学出版社 2007)

『『睢鳩』考』

(単著 『國學院雑誌』115-11 2014, 11)

『『湘夢詩草』頼山陽批語之述評』

(単著 『國學院雑誌』117-11 2016, 11)

は せ がわ きよたか
長谷川 清貴 准教授 HASEGAWA Kiyotaka

専門領域 中国思想

●主な業績

『封人』考

(単著 『國學院中國學會報』第52輯 2006, 12)

『荀悦『漢記』における「春秋之筆法」—昌邑王廢位記事を中心に—

(単著 『國學院雑誌』110-10 2009, 10)

『多能なる聖者—『論語』「太宰問於子貢」章小考』

(単著 『國學院中國學會報』第56輯 2010, 12)

『論語「思無邪」章小考—その成立時期と動機について—

(単著 『國學院雑誌』114-3 2013, 3)

『鄭玄の「為政」観—『論語』注と「戒書」とを中心に—

(単著 『國學院中國學會報』第60輯 2014, 12)

みやうち かつひろ
宮内 克浩 教授 MIYAUCHI Katsuhiko

専門領域 中国古典文学

●主な業績

『楚辞後語全注釈』1～5

(共著 明徳出版社 2014～2018)

『後漢・傅毅「舞賦」初探』

(単著 『國學院中國學會報』第60輯 2014, 12)

『後漢・朱穆「崇厚論」小論』

(単著 『國學院中國學會報』第61輯 2015, 12)

『後漢・臧洪の絶交書について』

(単著 『國學院雑誌』117-11 2016, 11)

『後漢・馮衍「自論」初探』

(単著 『國學院雑誌』118-11 2017, 11)